

校名：奈良教育大学附属幼稚園

所在地：〒630-8301 奈良市高畑町 354 番地
電話番号：0742-27-9286

記載日：2016年5月10日

記載者：竹内範子

記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

●本園の教育目標

生き生きと遊ぶ子ども (安定)
精いっぱいがんばる子ども (充実)
友だちといっしょにのびる子ども (共存)

●本園の教育の特色

豊かな自然に囲まれた「こころ」も「からだ」も育つ幼稚園

本園は、幼児一人一人を大切に、常に幼児の立場に立って考え、幼児自身が楽しいと思える幼稚園を目指しています。その中で、『自尊心』と『からだ力』を育むことを目指しています。

こころ

自尊心

かけがえない自分を大切に思う心
自分の弱いところやいやなところを含めて、自分をまるごと肯定する気持ちであり、自分の存在そのものを価値あるものと認める心

生きていくうえでの基礎となる『自尊心』の育ちを大切にする保育を心がけています。嬉しさ、喜びとともに様々な葛藤も経験しながら人の思いに気付き、人として必要な心の育成を図っていくことを目指しています。

主体的な遊び
を大切に

幼児の主体的な遊びを大切に、遊びの中で幼児の姿を様々な側面から総合的にとらえ、発達にとって必要な経験が得られるようにしています。幼児が自ら遊びを見つけ、積極的に自分のやりたいことに取り組めるようにし、生きる力の基礎をはぐむようにしています。

自然あふれる
環境の中で

園内外の恵まれた自然環境を最大限に生かし、幼児の豊かな感性を培う。特に園内にある“子どもの森”では、四季折々の自然の中で五感を働かせながら様々な体験ができるようにしています。



貴校の卒業生の活躍状況について：

卒園児は、連絡進学で附属小学校に進学し、その後続いて附属中学校に進学する園児が多い。

魅力ある特色ある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて： 「幼児期に必要な『からだ力』を育む」取組

生涯にわたる健康な心や体をつくるために、
幼児期に育みたい体力や運動能力、運動に対する意欲等を総称して「からだ力」と呼ぶ

動きづくり
コーディネーション能力
バランス能力／リズム能力
／反応能力／連結能力
／定位能力／変換能力／識別能力

多様な動き
【体のバランスをとる動き】
立つ・座る・しゃがむ・寝転ぶ・起きるなど
【体を移動する動き】
走る・歩く・はねる（垂直に）跳ぶ・登るなど
【用具などを操作する動き】
持つ・運ぶ・投げる・（ボールを）捕るなど

からだ力



気持ちづくり

意欲に関するもの
繰り返し／めあて・目標
／工夫・試行錯誤／集中・緊張・挑戦
／誇らしさ
心地よさに関するもの
開放感／高揚感／爽快感／達成感・自信
友達に関するもの
イメージ・模倣・なりきる／刺激・憧れ
／共感・共有／競争（面白さ・悔しさ）

体づくり

体幹・肩周囲・腕・股関節周囲・脚・心肺系

本園では 2011 年度から 5 年間、「幼児期に必要な『からだ力』を育む」というテーマで研究を重ねてきた。研究を進める中で「生涯にわたる健康な心や体をつくるために幼児期に育みたい体力や運動能力、運動に対する意欲」として『からだ力』を定義し、その『からだ力』は「からだ」「うごき」「きもち」の3つの要素から成り立ち、相互に作用しながら育まれていくものと考えている。そしてそれぞれを育むために、「体づくり」「動きづくり」「気持ちづくり」の3つの観点から、具体的なアプローチの方法を探り、『からだ力』を育むための学年別ポイント」ならびに「『からだ力』を育むための指導計画」を作成した。

○「からだ力」を育むための実践例



おはようボール

保育室までの通路で、
ジャンプしてボールに
タッチする

からだ：体幹・肩周囲・腕
うごき：バランス・リズム・連
結・定位・変換・識別
きもち：繰り返し・目的・集中・
挑戦・高揚感・達成
感・刺激・模倣



おはようたいそう

みんなと一緒に、体のいろいろな
部位を動かして、いろいろな動きを
取り入れた体操をする

からだ：体幹・肩周囲・腕・
股関節周囲・脚
うごき：バランス・リズム・連結
きもち：繰り返し・刺激・開放感・
模倣・共有



玉を使って遊ぶ

玉入れの玉を使い、
いろいろな道具や
遊具を組み合わせる遊ぶ

からだ：肩周囲・腕
うごき：バランス・連結・定位・
識別
きもち：繰り返し・めあて
・達成感・共感



ぞうきんがけをする

四つ這いになって
保育室の床のぞうきんがけをする

からだ：体幹・肩周囲・腕・股関節周囲・脚
うごき：バランス・反応・連結・定位・識別
きもち：繰り返し・目的・挑戦・高揚感・達成
感・刺激・共有・競争・おもしろさ

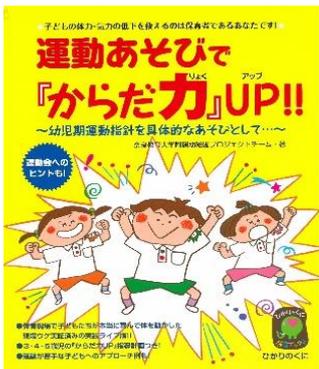


背もたれのないいすに座る

普段の生活の中で、スツールや
ベンチなどに座り、背筋を伸ばす

からだ：体幹・脚
うごき：バランス・識別
きもち：緊張

○2014 年度「ひかりのくに」より「運動遊びでからだ力 Up！」 発行



2014 年 6 月には、これまでの研究成果および実践をわかりやすくイラスト等で表し「運動遊びで『からだ力』アップ！」と題した本を、ひかりくにより出版して全国の幼児教育関係者の保育実践に生かしてもらっている。



奈良教育大学附属幼稚園プロジェクトチーム
「運動あそびで『からだ力』UP!!」2014, ひかりのくに(株), P7

○2015 年度文部科学省スポーツ庁「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」受託



2015 年度には、文部科学省の「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」の委託を受けることとなり、私たちの作成した指導計画に則った実践による保育を進め、その効果を実証した。

2016 年 3 月には、「幼児期の運動に関する指導参考資料」として、本園の実践や取組も掲載された冊子及び DVD が全国の幼稚園・こども園・保育園等に配布された。



大学と連携した取組

本園は、奈良教育大学の附属幼稚園という特性を生かし様々な取組を行っている。大学附属自然環境センターでのいもほりなどの収穫体験、大学の研究室探検、学生サークル体験、大学の先生から学ぶ“科学の日”、学生による読み聞かせ、学生による人形劇、子どもの森で行うやきいも大会など、大学の先生や学生と連携した様々な取組を実施している。これらの取組を通して、子どもの知的好奇心を刺激し、実体験から“学ぶ喜び”につながる教育を目指している。以下に取組の例を載せる。

◎「デジタルむしずかん」



理数教育センターの協力のもと理科教育講座の学生と園児が一緒になって本園の園庭や子どもの森で採取した 150 種もの虫を載せた附属幼稚園独自の「むしずかん」を 2011 年度に作成した。実際の写真と本当の大きさや色、特徴などが書かれた幼児でもわかりやすい図鑑で、これらは、ネットでも検索できるようになっている。それ以来、園児それぞれが自分の「むしずかん」を持ち、生き物への興味を深めることに役立っている。

◎「絵画ワークショップ」



美術教育講座の先生と絵画研究室の学生による大がかりな絵画ワークショップを体験。遊戯室一面に大きな書道用パフォーマンス用紙を敷き詰め、年長児の子どもたちが大胆な絵の具遊びを楽しむ。手足だけでなく、ローラー、スポンジ、霧吹き、ほうき、熊手など普段描画に使うことのない道具を使って体全体で思い思いに表現する。子どもたちはその面白さに没頭し、大きな紙の上の自分が描いた線の軌跡を楽しみながら、夢中になって絵の具と戯れる経験をしている。

◎「うさぎの勉強会」



幼稚園で飼育しているうさぎは、子どもたちの涙を止めてくれたり、子どもたちの心を癒やしてくれたりする貴重な存在である。子どもたちは、うさぎに草をあげることや、うさぎ当番をすることが大好き。そんなうさぎについて、本学の自然環境センター研究員でもある獣医さんから学ぶ機会をもっている。うさぎの食べ物を聞いたり、抱っこのかたを教えてもらったり、聴診器でうさぎの心臓の音を聴かせてもらったりし、命あるものへの愛情をより深めることにつながっている。保護者向けにもうさぎの飼育の意味や動物と人間の関係などについての話をしてもらい、親子にとっての良い経験となっている。

◎ユネスコクラブによる世界遺産学習



奈良教育大学ユネスコクラブの学生が、ITC教材を活用し、東大寺、二月堂、春日大社、ならまち、奈良にシカがいる由来など、奈良の世界文化遺産や自分たちが住んでいる奈良について、子どもたちの興味や関心を高めることができるような話をしてもらおう機会をつくっている。

子どもたちは、遠足で行ったことのある東大寺の大仏様や二月堂などについての話を興味深く聴いている。自分たちが住む奈良のことを知るきっかけになったり、奈良の魅力を感じることができたり、奈良のことを好きになったりできればと考えている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域のモデル園および研修園として、それぞれの園での教育に活用できる存在であると考え、幼児期の教育に必須のテーマを掲げ研究を推進している。本園が毎年行っている公開保育研究会では、地域の幼稚園・こども園・保育園など幼児教育関係者の関心も高く、毎回300名以上の参加がある。本園の保育や研究内容から多くことを学んでいただき、各園での実践に活用していただいている。本園が毎年作成している研究紀要や「教育課程」「うたのほん」ならびに、ひかりのくにより発行している「運動遊びでからだ力Up!」などの研究物は広く地域の先生方に使用いただいている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本園は、昭和2年の設立以来、奈良の幼児教育を牽引してきたという歴史をふまえ、今までの教育および研究の成果を遺憾なく発揮するために、今後も変わらず子どもにとって、子どもの将来にとって一番いい環境としての理想の幼児教育・質の高い幼児教育を追求し、次世代にその幼児教育の重要性を伝えていくこと、また奈良県内および全国の幼児教育関係者に本園の教育および研究を広く発信していくことが附属幼稚園の存在意義であるとする。幼児期の教育のあるべき姿および質の高い充実した保育を大学の専門家とともに追求できるのは附属園ならではの存在意義である。

また、次世代を担う幼児教育者（保育者・保育教諭等）を育てるという教育大の使命の重大性を鑑みて、学生が常に身近に幼児の存在を意識し、その現状や現代的課題を認識することが必須である。そのためには大学内にある附属幼稚園で現場体験を繰り返し、学びを深められるようにすることが本園の重要な役割である。